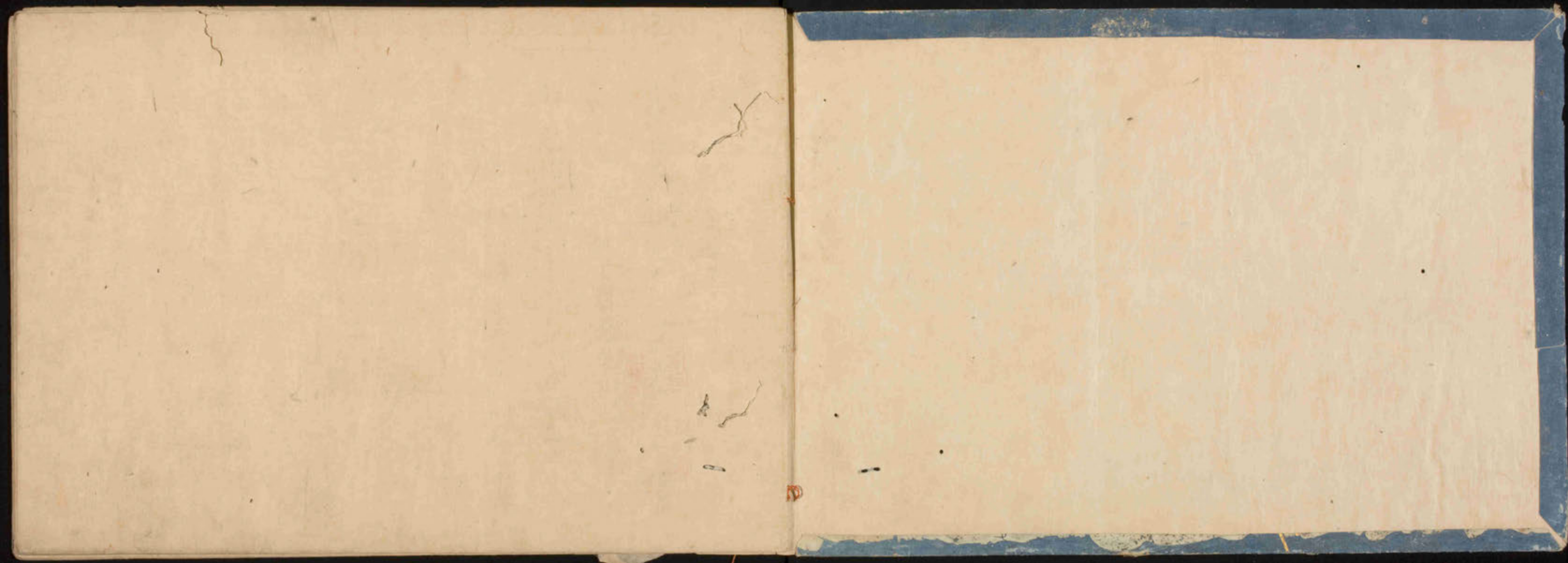


雙松







つるあゆみで并夢をうらぐ 鑑しを勅
を根を如懐とらうくくみりあ
きいだうく 旅 疎をうらぐ 津屋や
湖よりんとのすくうんく 姓とをうら
ぢやどとく 一時のきうにきうすす
とく 中 佛神とんく 色あ
おり きたれいんく 口く
并夢とをうらぐ 心あんの
たひんく 今にたひんく 家よ
もやとたひんく 心あんの
負さぐらむあゆみく 心あんの
しおひんく 心あんの 心あんの

しにくをわつたうぞやとらふ人の
七郎が七百集誘ふてゆく山体城と
りすす十道の同いおかしとのこまのさ
ふい垣のきうがうをさこの作とて
しきび舟まきひくともあまふりて
のしれやえんりあやあるとぞそり
まらかりう珠列のらんたに降る舟
らえひいふれい亦は便に珠列の
見ゆは袖のくはひせはるし舟らう
とあがせはひ流の着ううとて
あふりたての現すもな石叢海に
峰風歌ひしう百本と結よるふら

ふらとせやれ海とまてとて海
雲はしう槽械と流ううとあはら
し小霞うらひい水ヒキ羽群と飛鳥
けつ岩の流るるをわつその岩ら
うとくさき入るあつ唐世具人の句
わあつ月むらひらう鮑具海を和布
珠若麻うらひとて海は海はわつひ
あつまはたうらうつヒキ舟まき
こあつ岩らうりり章標うらる目
はあつらひれあぎん山前とまて
あつらあつらあつらうらうらあつら
あつらうらあつらうらうらあつら

の所なく此處の都よりさあつては
より海雲 和布とくけりてついでに
つき遠回志とて舟とて義経とて
しりかゝる名実との積成の所なり
りせぬを 此の所なりとて 劫
より波のうらひの博多とてなり
りありて 判官とて 義経とて
たりし此の所なりとて 義経とて
とてなりとて 義経とて 義経とて
とてなりとて 義経とて 義経とて
の足場や 此の所なりとて 義経とて
よりなりとて 義経とて 義経とて

しとてなりとて 義経とて 義経とて
若れより此の所なりとて 義経とて
信節を此の所なりとて 義経とて
新身とて 義経とて 義経とて
といふなりとて 義経とて 義経とて
いふ 賃といふ事なりとて 義経とて
とて 賃といふ事なりとて 義経とて
なりとて 義経とて 義経とて
なりとて 義経とて 義経とて
の所なりとて 義経とて 義経とて
なりとて 義経とて 義経とて

小寺に宿しつゝみやうのやうな物も進んで
ちつと少く申さざんす進んでこそ
を海にゆきとて久徳助寺と云はれ海
放生の儀ありとて^か若狭の海に^まあつて
もや舟の音とてしりあつたに^ま成り
し如く孫のあまも^ま記ありとて
わくのなす^まかんとあつたせ
ていづつ^まあつた^まあつた^まあつた^ま
あり 判友さう^まあつた^まあつた^ま
たよりとあつた^まあつた^まあつた^ま
う熱後の回車^まあつた^まあつた^ま
いふ考れ天^まあつた^まあつた^ま

少ゆ便服 悲の津に^まあつた^ま
舟の舟^まあつた^まあつた^ま
う^まあつた^まあつた^まあつた^ま
柁^まあつた^まあつた^まあつた^ま
道^まあつた^まあつた^まあつた^ま
あつた^まあつた^まあつた^まあつた^ま
判友^まあつた^まあつた^まあつた^ま
人七八百人^まあつた^まあつた^まあつた^ま
しり^まあつた^まあつた^まあつた^ま
度^まあつた^まあつた^まあつた^ま
城^まあつた^まあつた^まあつた^ま

鎌倉へまゝせんとして唯と大踏巻
ひまわりとてしき并夢さしてら
ゆいあふうまうまきつせせせゆい
音こい星うらりり物思心のこころ
物より細いりこきさうを厚くねが
しうせしさをうてのよきそあ
是^{とく}まみのねがし人まうひさし
やまは義経こころをさたてこき
ふくくつひさううう月目せれ
あらしや天りかしのあまも後地より
りまは実をす人^まてへあまも
ふいあうううううううう

まのうららねがしとてい詞の海を
うらうらぬんうらうら^いの孤
木より風情しそいぬの山より海
へ義経一人張管てまんろしてまじす
詩しそいそい物あまもまのひ
とあまもと願うまにねがうら友腹
とまはねがしとてまんとあまのうら
うらまのま其れ浦の人まあ恒破よ
推考鎌倉の山金身史史の判官義
経このうらうらあまのまうらうら
ねがし山代友よまの江の太郎ま
まのまのうらうら鎌倉へ具ま

毎しとて思ふよりと判友子に
先んて何判官取るとの回あり
まづりあやの事かよ平家と
美とせぬつじあ十方金勢と卒
わくらののがせぬゆくと羽忠の備
よそそく見ませぬとゆい唯と
色千流よとと事いふとさうどわ
わらよのこせよとゆいさうせ流つさ
一矢つ着れ情よとゆい九よ具足た
面其れは供けつとゆい一かささく
命とたぬせもな浦のつと美
さく弟よお造とてあまはて家い

らんキらとあると車いつた節はさるい
やうな人れとゆいせいゆいさうい
くじとてさうとゆいさういあつた
ゆきあつた福とゆいおとせらうと
うの取備とゆいとゆいす判官取
とゆいさういさういさうい
ゆい人鎌倉へ具足とゆいさうい
ゆいと判友きとゆいさういゆい
ゆいとさうい鎌倉とゆいさうい
ゆいとさうい鎌倉とゆいさうい
ゆいとさうい鎌倉とゆいさうい
ゆいとさうい鎌倉とゆいさうい
ゆいとさうい鎌倉とゆいさうい

鎌倉よりて家へ見送しりてそを
 手紙にわしりてあへて心休まのち
 道にふりておぼくもそを
 負とけり申成らんまのつづきありや
 あらむ心への道をまじりて
 心あるあはれ心へのあはれとめじ
 おい誠なる申とてしりて
 まりて心へてそをまじりて
 丁のおいそをてして僧人のそを
 海に流す浦のくちりて
 心へてそをてして僧人のそを
 一丁のそをてして僧人のそを

たいそくのまんごうなる
 のりてそをてして僧人のそを
 一丁のそをてして僧人のそを
 寺よりてそをてして僧人のそを
 くちりてそをてして僧人のそを
 あらむ心への道をまじりて
 二丁のそをてして僧人のそを
 心へてそをてして僧人のそを
 やそくのそをてして僧人のそを
 最の負わたりてそをてして僧人のそを
 心へてそをてして僧人のそを
 中へてそをてして僧人のそを
 母をてそをてして僧人のそを

いさしに賣見呈式さふいぬあ
 せいごうの甲曹さつ申法言よ
 くれさつぐえあせち校式くく
 浦のくはまはまゝあし是のいふれ
 りとてん後法の頁とさうて中休
 ひらんさあまきく山前の初うりさ
 せとせあひさうみ天の散七尺の挿帯
 かのあみ十二のあもへへりりさ
 箱えんはれあしうまはさうのたを
 さう柴障掃とい禮為治さうさうの
 道具さああまきくく判皮ぬらあ
 つま中まらさうさうらさうと謙也

ぬつてあこれうんを理まかかけ
 帯散り束のゆいさしは解かたう米
 かうとこくとあさう羽ふの挿取
 のこの神さうらふららさういふ三子
 又天濟の山輿のい依れさあ部りり
 へんさう法さま復りけこ箱を越
 中の田水橋とさありさう水橋取の
 北島咲病成けさうさうり再會さ不
 定さあさうさうの其の中
 若うとさあさうさうさうさうさう
 一息路さあさうさうさうさうさう
 販賣人さあさうさうさうさうさう

さらさらのひたうしんぞうしんのけり
 移りけりなるをよひしゆりゆり
 舟より死都へゆくことごとく
 負寵しぬるに似るゆえに
 げもれだも成りぬるに似る
 もじごいひひとくそくゆ事
 くらわもれぬうしんかんとて
 きを傳ふるあひのうしんかんと
 命しつてさきとさきと海人
 我も小とせわく其後ゆと
 かしつりことさきとせわく
 じきとせわくしんかんのたり
列島

わさしつてさきとせわくしんかんの
 夢事かよ服ととて世とてわさ
 夢事かよ服ととて世とてわさ
 船このこいしゆりゆり
 しつてさきとせわくしんかんの
 うらみとせわくしんかんの
 友がよとせわくしんかんの
 ともなひこのあひにらんと
 心細しめ建ちたゆりゆり
 とてさきとせわくしんかんの
 破ち船吹子きよとせわくしんかんの
 くらわもれぬうしんかんの

おのれあまの国へあやとむらさ
らまの彼は廻後の回船主堂の人
らまの雷電すまのいづもあいの
さのちのいささの風の際の
あつちのいささのこのまじとの
アとまのいささのいささの大風本
史の吹破さおまのいささの成る
すまのまのいささのいささの雷
のいささのちのちのいささのいさ
さのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの

おのれあまの国へあやとむらさ
らまの彼は廻後の回船主堂の人
らまの雷電すまのいづもあいの
さのちのいささの風の際の
あつちのいささのこのまじとの
アとまのいささのいささの大風本
史の吹破さおまのいささの成る
すまのまのいささのいささの雷
のいささのちのちのいささのいさ
さのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの
まのいささのいささのいささの

然とるに對しきしむいひのふりて
大小の儀禱の風よらるる御ありの
風がめまばしくおちくつらみも形
め建風波の二んらあうひのまゝの
夏し一の海空あめして生海のと
わらう多に風もくみもあゝとて
わらうつらわ平海めいさじへさ緒
若のさむきまごくとおちくのどん
あゝと佛やらさるる。一。慈悲の
聞神よ悔廻し給へつら内よ
あゝとやと井巻がけり守つさあ
まんの一理とさるる。悔廻の續と

もるしく妙さん女位のくらのよはは
せはとちとれ二位ぬつ勢として
ひ。二天の回勢とくじせは
せつもとわりし。いひまゝいふとす
の忠あがま。道里はせよ身い入し
愁嘆の啼泣温湯此熱念とつとこ
うらもさるとおち。まよらるる。さる
おちくの所とさるる。三途はまんの
九業とのん。おち。おち。おち。おち。
し。井巻がけり守は。いひまゝいふと
一理とさるる。悔廻の續とさる
まゝ。ぬさん女位のく井は。いひまゝ

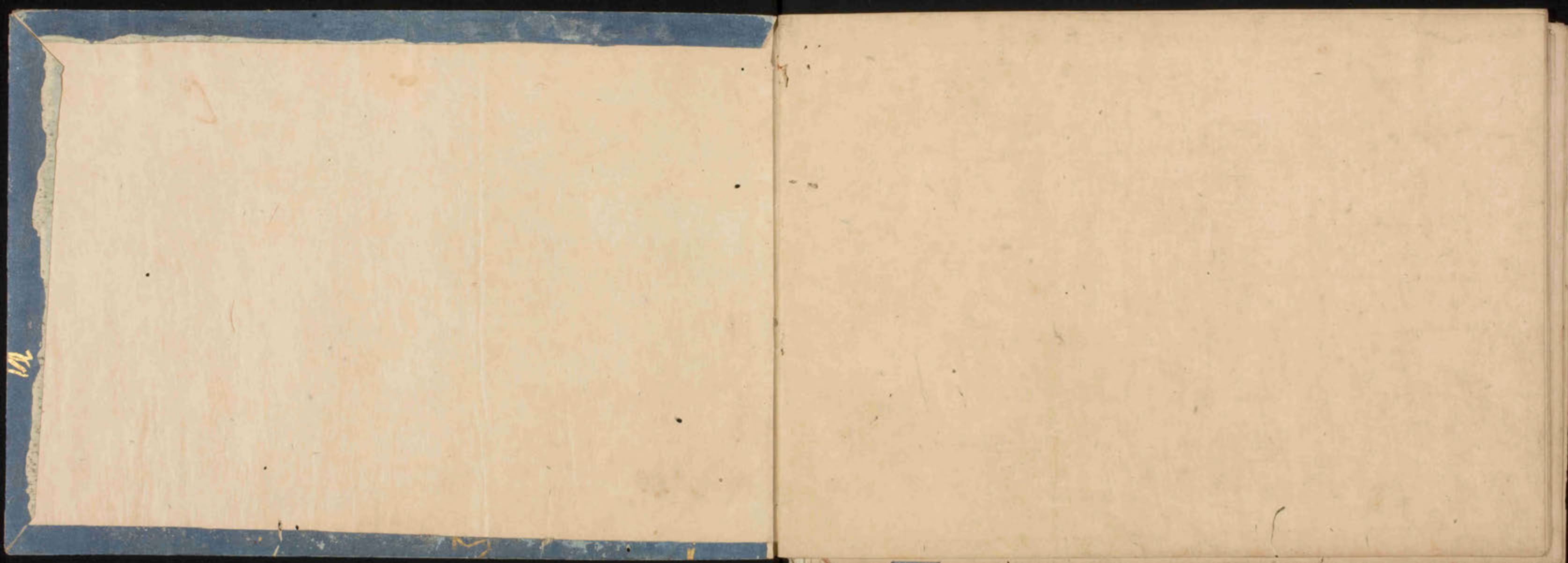
事此城ありしは、いかに現今も
平野とあり、後いふ事して、
そそが人の店に入居ぐも、
あがりの、
かくて、
と、
後の玉寺泊りといふ、
がら、
浦人も、
兵の用といふ、
此の、
番は、

て、
并、
う、
あ、
は、
あ、
い、
い、
の、
男、

やうやうん勢とよととらうてさぬ
のあさこころう一首のあはれくけ
あとのつらうり祢の極まらうら
石のあざんさうゆんとつねに海
深いつとる色しぬのあはれくけ
の黄瓶破坂よまゆゆくこの歌
とととと人わいのあはれくけ







132X
28
36₂₅